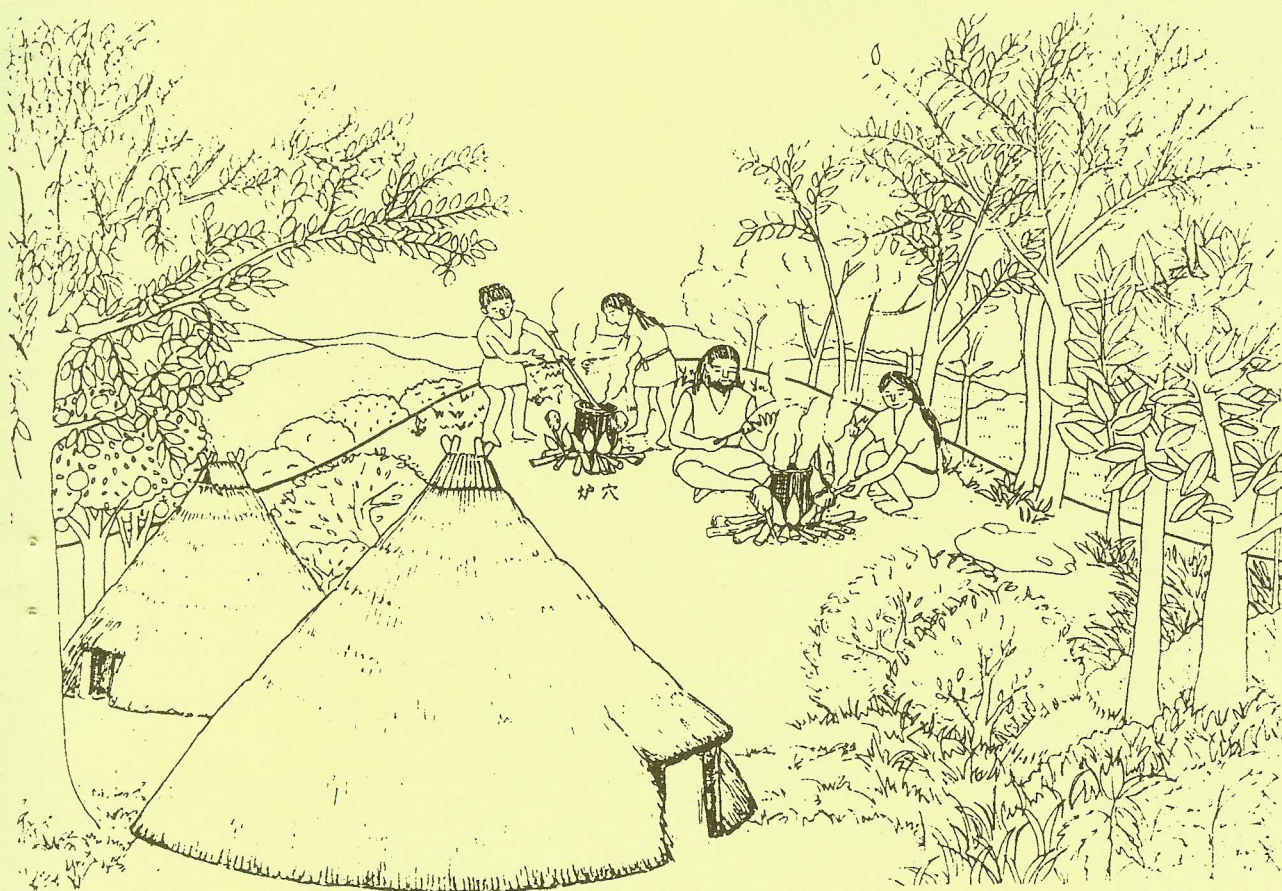


宮代町郷土資料館

企画展

「発掘された 逆井遺跡」



期間 平成8年4月24日(木)～6月9日(日)

開催にあたって

逆井遺跡は、下野田逆井地区ほ場整備事業等に伴う事前の発掘調査として、平成6年11月から平成8年2月にかけて行われました。

調査の結果、旧石器時代後期（約13,000年前）の細石刃と呼ばれる石器や細石刃を作った作業場、縄文時代早期（約7,000年前）の小竪穴遺構（住居址）や炉穴、縄文時代後期（約3,500年前）の貯蔵穴、江戸時代後期の根切り溝など数多くの遺構や遺物が発掘されました。

郷土資料館では、これらの成果を多くの皆様にご覧いただくために「発掘された逆井遺跡」と題して企画展を開催いたしました。この展示を通じて埋蔵文化財に対する関心やご理解を深めていただくことが出来れば幸いと存じます。

平成8年4月24日

宮代町郷土資料館

旧石器時代の逆井地区

宮代町に人々が住み始めたことが確認できるのは、約14,000年前です。現在、前原中学校が建つ前原遺跡などで確認されています。逆井遺跡では、約13,000年前から人々が住み始めたようです。

逆井遺跡の発掘調査では、約300点の礫や石器などが出土しています。特に注目されるのは、細石刃約15点と細石刃を作り出すための石器（細石刃核）8点が出土したことです。

これらの石器が出土したことにより、この場所は、細石刃を作る作業場であったと推定されます。また、熱を受けた石が集中する遺構も近接して見つかったことから、細石刃を作る作業場となんらかの関係があったものと推定されます。

細石刃文化と逆井遺跡

旧石器時代は、氷河時代末期にあたり、中国大陸やシベリアとも陸続きでした。そのため大陸起源の細石刃文化も人々の移動により、逆井遺跡へ伝えられたと推定されます。

日本全国で細石刃は確認されていますが、埼玉県内では少なく、埼玉地区にいたっては、関東ローム層中より発掘された例は、逆井遺跡を除き全くありません。

さいせきじんかく

No 1 細石刃核

逆井遺跡第5地点出土

細石刃を作り出すための石核です。この石器が見つかったことで、この場所が細石刃を作り出す作業場であることが確認されました。逆井遺跡では、円錐形のものが8点出土しています。

さいせきじん

No 2 細石刃

逆井遺跡第5地点出土

縦長の約2cm程度の石器です。それ自身では石器とはならず、木や骨



上が細石刃、下が細石刃核

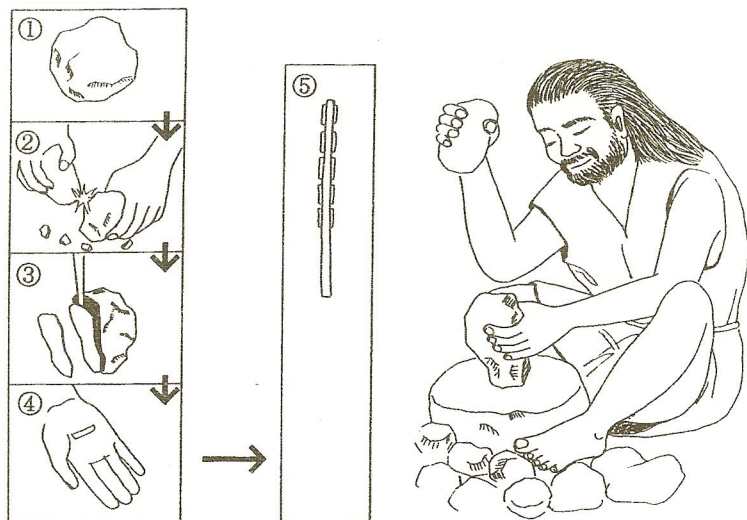
の軸などに差し込んで使用しました。

そうき

No 3 搔器 (スクレイパー)

逆井遺跡第5地点出土

剥片や石刃の一端に加工を加えた石器です。皮をなめす際などにひっかくように使用されたと推定されます。



細石刃の作り方

- ①黒曜石やチャートなど石（礫）。これらの石は宮代付近では採集できないため、遠くから持ち込まれた。
- ②細石刃を作り出すための石器（細石刃核）を作り出す。
- ③鹿の角などで細石刃核から細石刃を剥離させる。
- ④できあがった細石刃
- ⑤木や獣骨でできた棒状の柄に細石刃をはめ込み物を切る道具として利用された。

縄文時代の逆井地区

縄文時代は、現在より数メートル海面が高かったといわれています。現在までのところ、逆井遺跡では貝塚は確認されていませんが、宮代町字東にある西光院遺跡では、海水と淡水が混ざる地域に生息する、オキシジミを中心とした貝塚が確認されています。これらのことから、逆井遺跡も海に面していたと推定されます。

逆井遺跡の発掘調査では、縄文時代早期前葉（約9,000年前）から縄文時代後期（約3,500年前）にかけての土器や石器が出土しています。特に多く出土する時期は、縄文時代早期後葉（約7,000年前）と縄文時代後期（約3,500年前）です。このころ、集落が営まれたと推定されます。

けつ

No 4 球状耳飾り

逆井遺跡第4地点出土

この耳飾りは、縄文時代前期のものです。滑石という石をよく磨き作られました。現代のイヤリングと同じものと推定されます。



球状耳飾り

じせん

No 5 耳栓

地蔵院遺跡出土

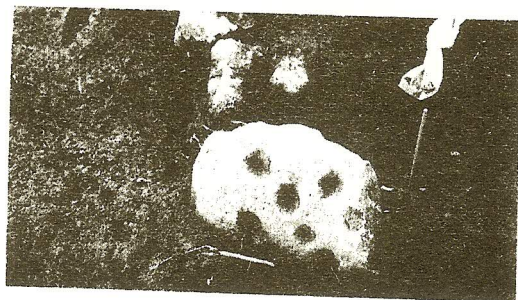
この耳栓は、縄文時代中期のものです。球状耳飾りと比較してもらうと明らかですが、時代ごとの流行がしのべれます。

くぼみ

No 6 石皿・凹石

逆井遺跡第4地点出土

石皿・凹石とも調理道具として用いたと考えられます。逆井遺跡で出土した石皿は、すべて破片です。



石皿出土状況

No 7 石鏃（やじり）

逆井遺跡第2地点出土

弓矢の先端につけられた石製のやじりです。イノシシなどを捕るために使われました。

No 8 縄文時代早期の土器 (約7,000年前)

逆井遺跡第4地点出土

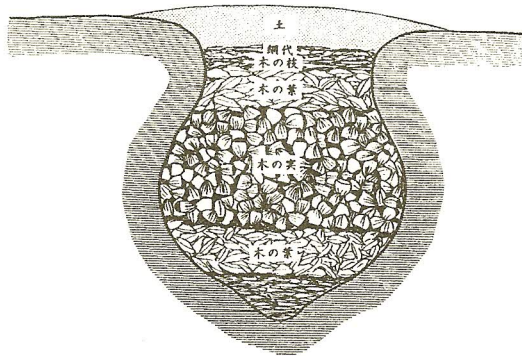
炉穴の中から見つかりました。この時期の土器は、底部がとがっているのが特徴です。

No 9・10 縄文時代後期の土器 (約3,500年前)

逆井遺跡第2地点出土

縄で文様をつけた後、竹などの工具を使って線をつけました。底部は平底です。

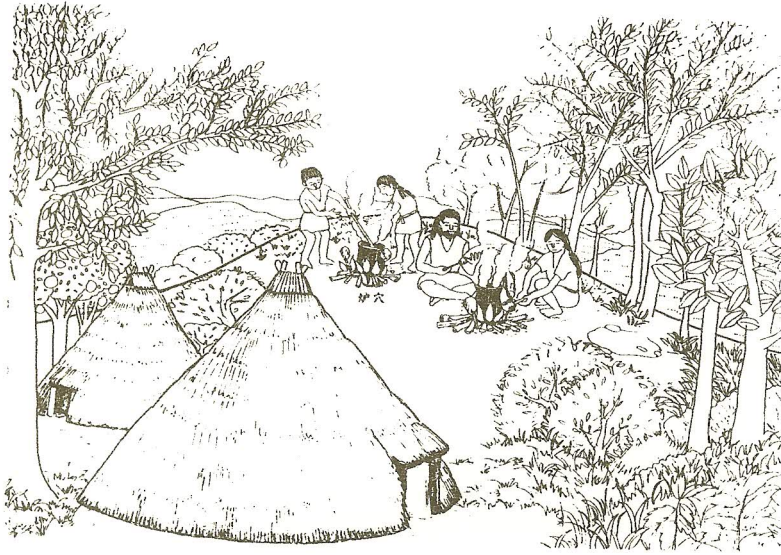
貯蔵穴推定復元図



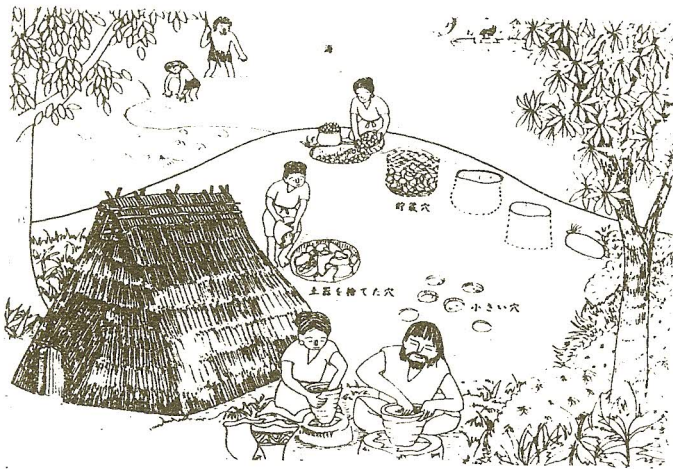
大型で深い穴は貯蔵穴だと推定されます。形態は、袋状やフラスコ状の形をしています。逆井遺跡では木の実などは出土していませんが、他の遺跡で同じような形態の穴から木の実などが出土した例もあります。こうした例から逆井遺跡で検出された貯蔵穴を復元してみましょう。

まず、袋状の深い穴を掘ります。そして、木の葉を敷き、その上に木の実などの保存食料をおきます。また、木の葉をのせ、木の枝などをかぶせたあと、木の皮などで編んだ網代を敷きます。その上に土をかぶせ長期にわたり保存しました。また、貯蔵穴で保存をすることにより木の実の渋みも抜けたようです。

逆井遺跡推定復元図



約7,000年前の逆井遺跡では、炉穴が多く作られました。この時期では、まだ住居の中に炉（現代の台所）がなかったため、屋外に炉穴を掘り、そこで食事をしたと推定されます。現在のバーベキューと同じようなものです。この炉穴は台地の縁辺部に沿って作られました。そのため、住居と推定される小竪穴遺構も炉穴の近くににあります。



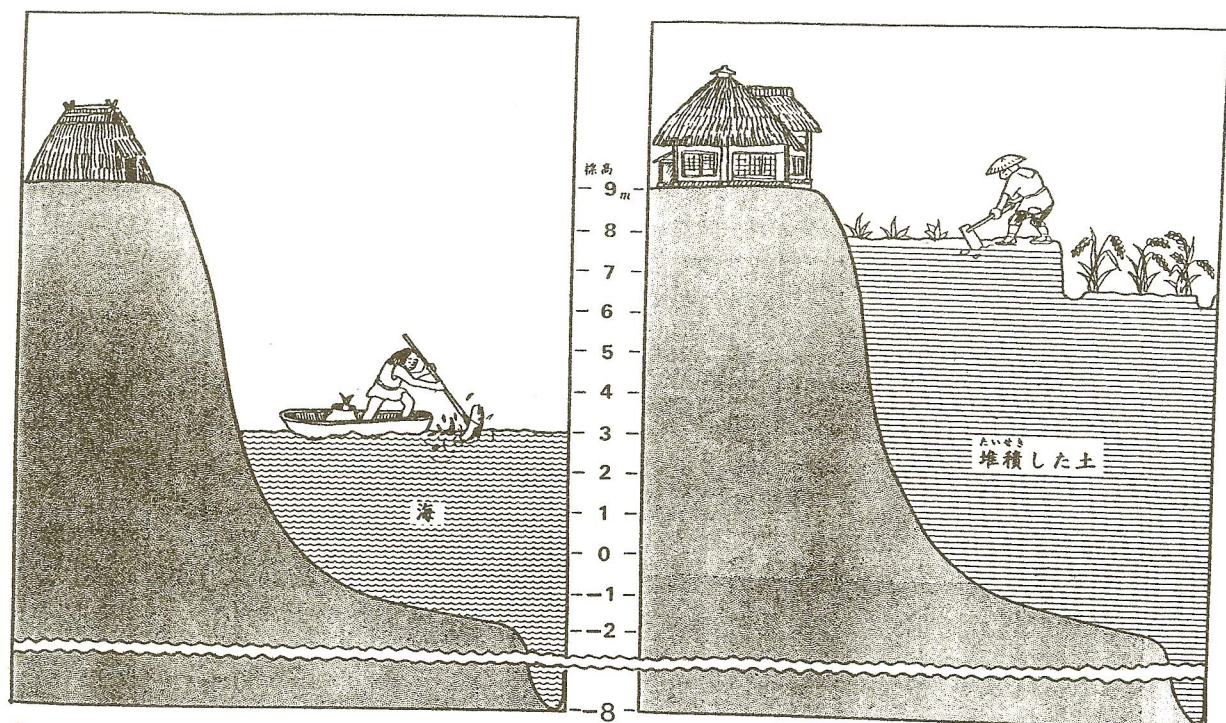
約3,500年前は、逆井遺跡で最も繁栄した時期であると推定されます。発掘調査でも集落の一端が垣間見られました。それは、集落中央部に土器を捨てた穴などの小さくて浅い穴が集中し、それらの外側に大型で深い穴（貯蔵穴）が配置されています。住居は比較的奥まった所にあるようです。

現在、台地と低地（もと逆井沼）の比高差は、約1～2メートル程しかありませんが、縄文時代では、約8～10メートルもあったと推定されます。その上、海水面が約3メートルも高かったため、遠くは栃木県の藤岡町まで海岸線がおよんでいたようです。

宮代町で最も海が深かったのは、笠原小学校周辺で現在の地表面より17メートルも低かったことがボーリング調査で明らかになっています。

たび重なる河川の氾濫による土砂の流入や気候の変化、自然隆起や沈降、地震などにより、かつて海であった所も長い年月の間に埋り、沼（逆井沼）が形成されたようです。

江戸時代中頃になると逆井沼の新田開発が行われ、かつて沼だった所も水田となりました。



縄文時代・江戸時代比較図

江戸時代の逆井地区

縄文時代の海も遠のき、しだいに沼となり、いつのころか逆井沼と呼ばれるようになりました。江戸時代の中頃、享保9年（1724）8代将軍徳川吉宗の命令で、池田新兵衛により逆井新田が開発されました。逆井新田の開発方法は、逆井落（浮戸谷落）を掘り、沼の水を笠原沼に落として水田化しました。また、台地部分は、新田畑として開発したようです。

逆井新田は、逆井中島村新田、逆井蓮谷村新田、逆井百間村新田の3つの村から構成され、いずれも天領（幕府の直轄地）に属します。明和8年（1771）になると四ヶ村（東村、中村、中島村、蓮谷村）入会地の秣場（田畑の肥やしにする草などを刈り取る場所）が開発され、百間四ヶ村請新田が誕生します。また、近接する百間西原組新田や百間金谷原組新田も同じ頃、開発されたようです。

発掘調査では、屋敷林と新田畑を画する根切り溝や秣場（後の四ヶ村請新田）と逆井百間村新田を画すると思われる溝が確認されています。

No 11 逆井中島村新田検地帳

岩崎家文書

享保9年（1724）に開発された逆井新田は、享保14年に検地が行われました。

検地をすることにより、収穫高などが分かるため年貢の量を決めることが出来たようです。この検地帳は、当時調べられた細かい内容が記載されています。

No 12 新田絵図

岩崎家文書

この絵図には江戸時代中期から後期にかけて開発された新田が記載されています。いずれも天領（幕府の直轄地）に属しました。

No 13 逆井新田絵図

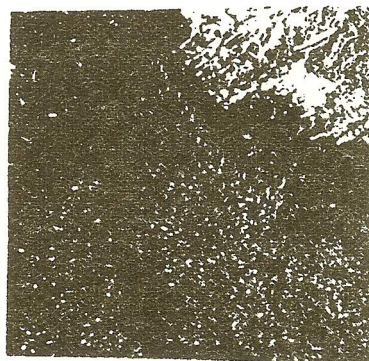
岩崎家文書

逆井中島村・逆井蓮谷村・逆井百間村新田と百間四ヶ村請新田などが記載されています。当時の村域をうかがう上で非常に重要です。

No14 古銭

逆井遺跡第4地点出土

江戸時代、広く流通した寛永通宝です。



No15 生活雑器

逆井遺跡第4地点出土

江戸時代末期から明治・大正期の陶磁器です。

根切り溝



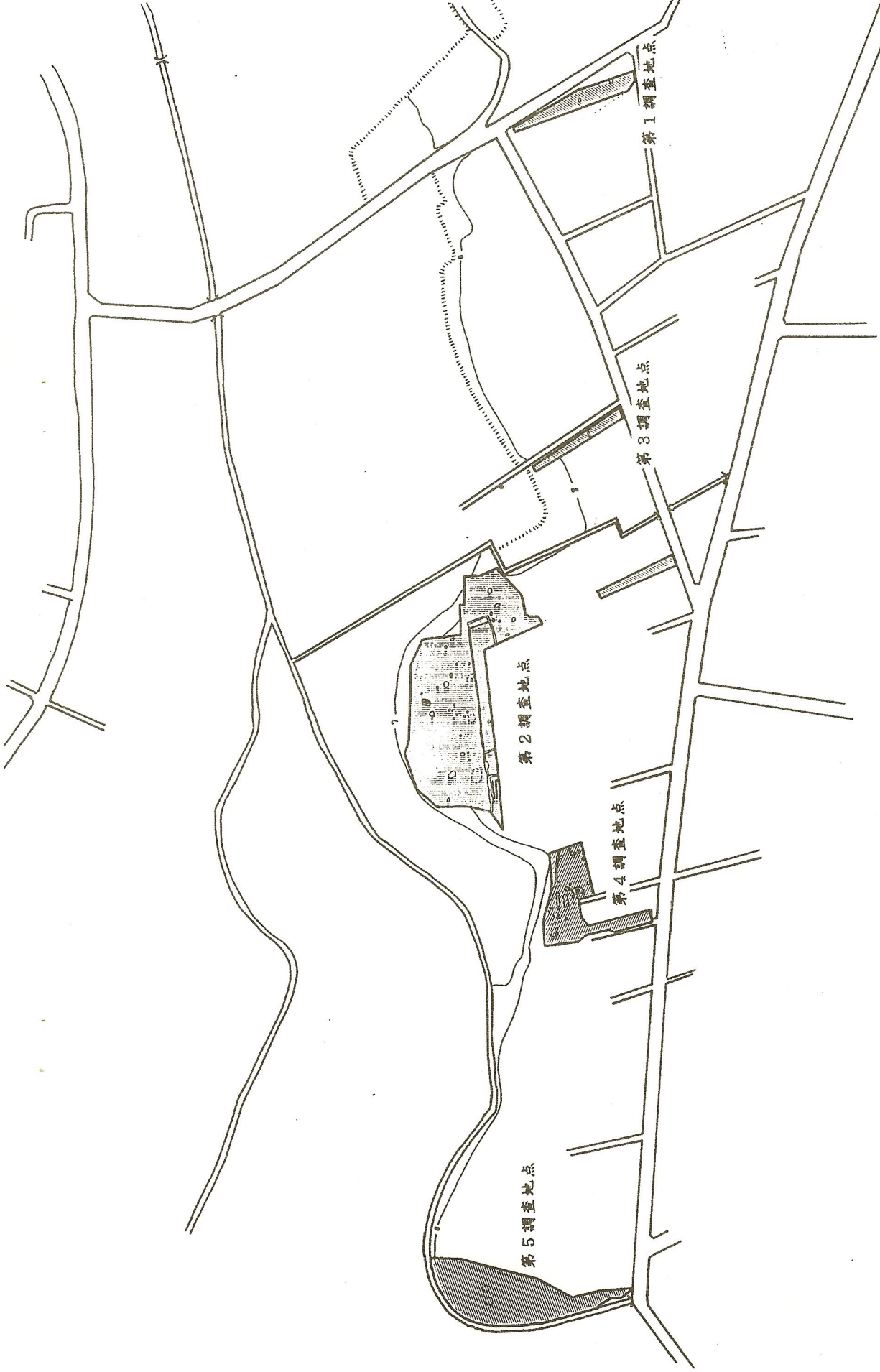
江戸時代の逆井遺跡

江戸時代中頃になると逆井沼は逆井落（浮戸谷落）を開削したことにより、逆井新田となります。また、台地の部分は、新田畑として開発されました。屋敷林に囲まれた茅葺きの民家も造られるようになり、江戸時代の典型的な農村風景が見られます。

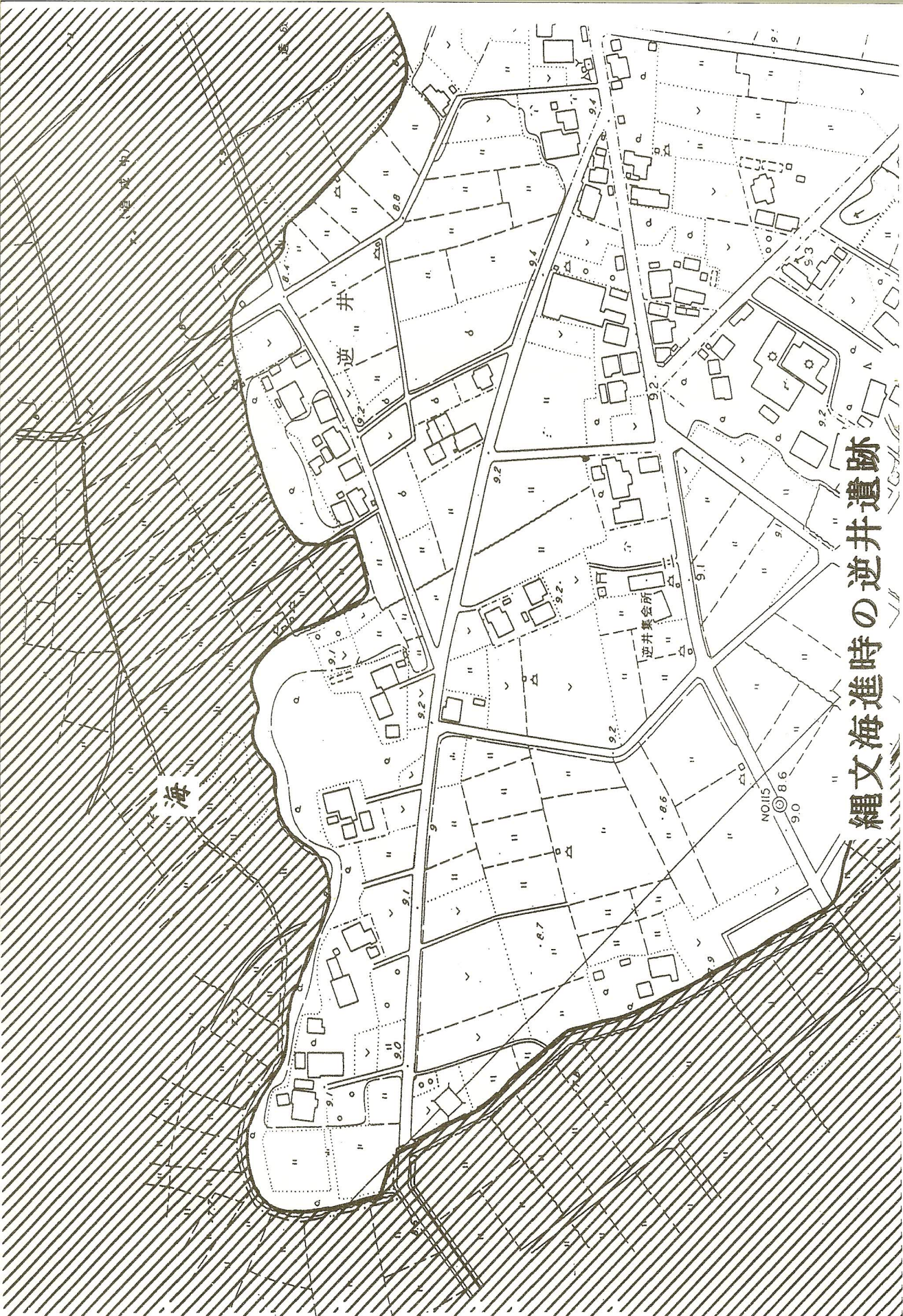


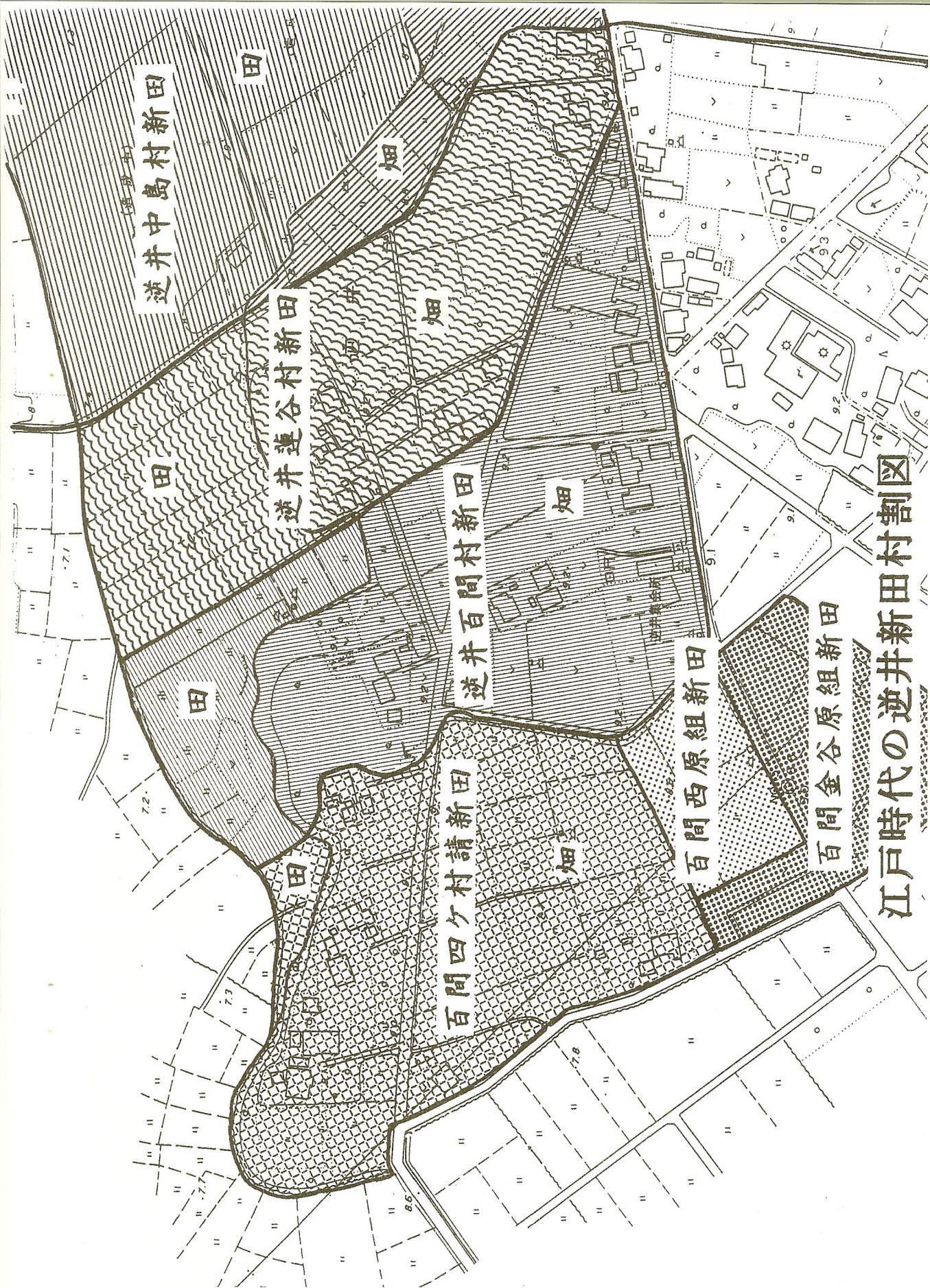
逆井遺跡

逆井遺跡全測図



縄文海進時の逆井遺跡





逆井中島村新田

逆井逆谷村新田

逆井百間村新田

百間四ヶ村請新田

百間西原組新田

百間金谷原組新田

江戸時代の逆井新田村割図

